

地域ケア会議の取り組み

～個別支援から地域支援の「基点」となることを目指して～

桑名市北部東地域包括支援センター

北部東包括の 一日の始まり・・・

朝の会

毎朝開催

30分～1時間 念入りに

各自の動きを
共有

各ケースの
支援方針を
検討・決定

OJT



地域ケア会議の必要性を検討



役割決め・方針確認・報告

タイムリーに多職種で

★合意形成

★課題共有

※その他週1回、別にミーティングにて事業の進捗を確認・共有

そんな中行った平成30年度の地域ケア会議

事例①「X団地のAさん」

参加者：ケアマネ、事業所、民生委員、生活支援CO、介護予防支援室、包括

80歳 女性 要介護1 認知症 独居 デイサービス・ヘルパー利用

- 目的 : 物盗られ等の行動心理症状により地域が疲弊。介護サービスの状況、家族との関わり、地域での実態を情報共有し、今後の支援方針を検討する
- 内容 : ①適切な医療について(医師への生活状況の正確な伝達、近医の可能性)
②今後の生活の場所について(家族の意向、在宅生活の限界点)
- 方針 : 受診状況の確認と医師への情報提供、家族の意向と本人の意志を尊重した生活の場の提案、民生委員から正確かつタイムリーな情報を(伝えてもよい範囲で)地域で共有
- 結果 : ケア会議後、あたたかい地域での見守り・支えの中で生活。これまで距離のあった長男・長女の妻の関わりも増える。結果、サ高住に入所することとなった。

そんな中行った平成30年度の地域ケア会議

事例②「Y団地のBさん」

参加者：ケアマネ、事業所、民生委員、自治会長、ブロック長、生活支援CO、介護予防支援室、包括

59歳 女性 要介護1 若年性認知症 夫と二人暮らし 小規模多機能居宅介護利用

- 目的 : 一人歩きが増えたことにより生じた地域の不安の払拭、本人・家族の負担を少しでも軽減したケアと地域づくり
- 内容 : ①本人・家族の意向を尊重した事業所の支援方針を共有
②認知症になっても暮らせる地域力向上のために、地域にどのようなはたらきかけをするか
- 方針 : 本人・夫ともに望む「在宅生活」を、ライフスタイルを維持しながら継続できるケアの確立を目指す。事業所、包括、地域の役割を明らかにし、自治会のブロック長会議にてあたたかい見守りを依頼。
- 結果 : ケア会議後、自治会の新旧ブロック長会議に2回、事業所と生活支援COと共に参加。伝えられる範囲で情報提供、見守りをはたらきかけた結果、団地内でのより理解ある、あたたかい見守りにつながった。現在も伊勢大橋を歩いて渡り実家へ行くスタイルを継続。見守りの強化を模索中。



地域ケア会議から導き出した課題

★事例①、事例②から導き出した課題

- ・ 団地における認知症高齢者の著しい増加があり、住み慣れた地域で生活し続けていくための地域力強化が急務
- ・ 支援の経過から鑑みるに、地域での見守りや支え合い体制が確立していないために包括が対応に追われることが多く、プレーヤーの域を脱せていない

★事例①、事例②をふまえ地域生活応援会議の個別ケースの蓄積から導き出した課題

各団地にはシルバーサロンや通いの場、中には助け合いを行うボランティアグループもあるが必ずしも卒業後の行先や支え合いにつながらない



看護師：吉成

⇒卒業できない要因の分析の必要性

本当に団地の地域づくりが急務なのか？

長島町北中部地区 3団地に着目(事例のX団地、Y団地含む)			/人口
平成29年度	3団地における認知症の相談人数(重複なし)	21	2.5%
平成29年度	3団地以外における認知症の相談人数(重複なし)	42	1.8%
平成29年度	3団地における認知症の相談件数	70	8.3%
平成29年度	3団地以外における認知症の相談件数	132	5.6%
平成30年度	3団地における認知症の相談人数(重複なし)	13	1.5%
平成30年度	3団地以外における認知症の相談人数(重複なし)	31	1.3%
平成30年度	3団地における認知症の相談件数	70	8.1%
平成30年度	3団地以外における認知症の相談件数	93	3.9%

過去3年間に認知症の相談あり、または介護サービスを利用した人数

大倉	27人
姫御前	18人
かおるヶ丘	14人

※平成30年度は12月31日時点

	桑名市	大倉団地	姫御前団地	かおるヶ丘
高齢化率	25.60%	36.70%	37.90%	37.60%
		+11.10%	+12.30%	+12.00%

課題の分析①

「認知症の増加に伴う地域での支え合い体制を
確立していくためには・・・」

- ★ 家族及び専門職の支援にとどまり、住民に認知症高齢者の増加についての実感がない
- ★ そのため「自分事」となりにくい
- ★ 認知症への正しい理解、認知症を身近に感じてもらう必要がある



社会福祉士：市川

課題の分析 ⇒ 取り組み ①



かおるヶ丘団地にて認知症サポーター養成講座。実際に認知症の方を地域で支援されており、より深い理解につながりました。



長島初！姫御前団地にて“認知症みんなが安心声かけ訓練”実施。認知症サポーター養成講座、熱心な打合せ、当日の試みを経て、認知症の理解が深まりました。



長島町内3小学校、大和小、深谷小で認知症キッズサポーター養成講座開催。子どもたちも支え合いの一員です。



課題の分析②

「住民の取り組みが支援を必要とする方に十分に届き機能する」
ことを実現するためには・・・

3 団地とも認知症や支援の必要がある方を地域で支える素地・地域力が十分にある



それをもっともっと活かしていくためには・・・



社会福祉士：小柳

- ★ 高齢者世帯においては家族が市外、県外に住む家庭が多い。家族の意向や協力の様子がわからず、不安・不信・迷いが生じやすい。
- ★ 「介護サービスが入っていれば安心！」の感覚が根強い。事業所と地域の顔の見える関係が大切。

**家族の協力や介護サービス利用内容等の情報
提供が住民の安心感につながり協力へ**

課題の分析 ⇒ 取り組み ②

事例①X団地の
民生児童委員との
タイムリーな情報提供

民協定例会参加



シルバーサロンスタッフ・
自治会とのタイムリーな
情報提供

生活支援COとの連携



Y団地のブロック長
会議にて事例②Bさんの
見守り依頼・情報提供

- ・事業所
- ・生活支援CO
- ・民生児童委員
- ・自治会長



事例②Bさんが買い物で
利用するドラッグストア
の方を含めたケア会議

事業所・店



Z団地 水木カフェ

認知症の方の受け入れ
体制整備に向けて
関係者と検討

取り組みの効果・結果

★地域ケア会議の開催そのものから

地域力と介護サービスで認知症高齢者の在宅生活の限界点を高めた

★各種取り組みから

- ・地域に、認知症に関心をもつ方が増えた
- ・地域に情報が届く体制を整えることで、「他人事」から「我事」となり、協力を得られやすくなった
- ・シルバーサロンや通いの場において、認知症の方や要支援の方に対する受け入れのハードルが下がった



看護師：丹羽

フレージョーから
マネージャーへ

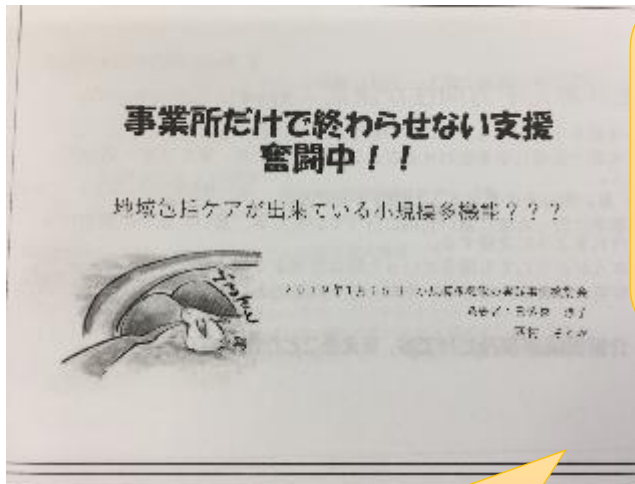
専門職が中心となっていた見守り・生活上の支援



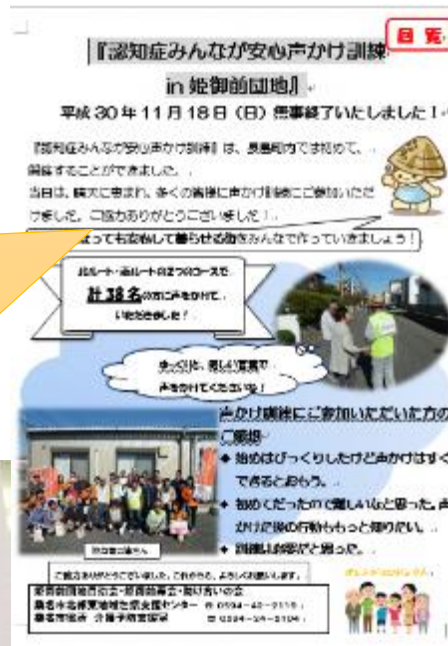
通いの場V r や参加者間で認知症の理解や対応方法を伝えられる⇒

認知症になっても
安心して暮らせる団地

取り組みの効果・結果を地域で共有



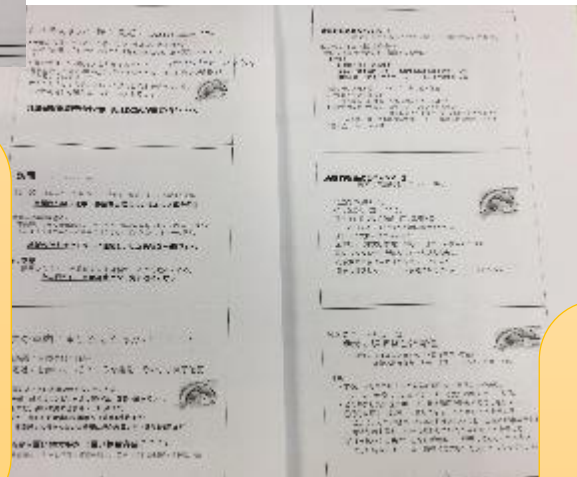
認知症みんなが安心声かけ訓練。取り組みの成果・結果を自治会回覧でお知らせ。



長島地区・成徳地区民生委員児童委員協議会定例会に毎回参加し、取り組みや委員との連携状況を報告。



事業所の運営推進会議にて取り組みや地域との協力の状況を報告。



北部東包括だよりを年2回発行。ケア会議からの取り組みについても見える化予定(年度末発行)。ちなみにこれは6月発行分。



※事業所からの許可を受けて掲載しています

事例②Bさんの支援について、ケア会議を含めた取り組みや成果を「小規模多機能の実践事例検討会」で事例発表されました。事業所との経緯・結果の共有が表現されています。

地域ケア会議の取り組みから 私たちが得たもの

地域ケア会議にあがるケース

⇒そのときは本人も家族も地域もCMもみんなしんどい
でも...

ご近所も民生委員も自治会長もサロンスタッフも、
もちろん包括も
みんながAさん・Bさんに「知る」「共有する」
きっかけをつくってもらった

振り返れば地域の力がUPしていた



主任介護支援専門員：杉山

Aさんに「ありがとう」、Bさんに「ありがとう」

地域ケア会議の「進化」と「深化」

短期的な目標としての「進化」

今年度の取り組みから得た地域ケア会議の意義



社会福祉士:岩瀬

- ★個別支援から地域支援へつながる「基点」となりうるもの
- ★地域住民に支援状況の情報が届くことで、住民の日頃の活動や自然な支え合いが「意識化した支え合い」＝「地域資源」となる
- ★一つ一つの地域ケア会議がプレーヤーからマネージャーになるための試金石

地域ケア会議を開催するハードルを下げ、かつ地域ケア会議の質を高めることが大事！

よりインフォーマルな支援につなげていくために、ボランティアや商店等、関わりのある多様な主体の参加
Bさんの事例：
⇒ドラッグストアやまちの電気屋さん

毎回出席する地域生活応援会議にて、自圏域のケースにおける地域課題を発見し持ち帰る
⇒ 包括内で共有・蓄積

専門職が地域とつながるチャンスととらえ、医療職・介護職の参加を促進。
ケアマネージャーが地域とつながる場としても活用。

地域ケア会議の「進化」と「**深化**」

長期的な目標としての「**深化**」

まちづくり協議会設立準備委員会やふかや支えあいの会等の協議体に参加し、
(平成30年度より伊曾島地区・長島北部地区のまちづくり協議会設立準備委員会には参加しています)

- 地域生活応援会議や個別地域ケア会議で蓄積した地域課題の提示
- 自治会ごと、小学校区単位ごとで実施している住民参加の各種事業を
見える化し、自治会間、小学校区間での相乗効果を高める
- 個人情報への注意をふまえた上で個別事例を提供し、住民が自分事として
考えられる機会を提供。住民主体の活動が起こるきっかけ作りに努める
- 住民とともに考える、高齢者がいつまでも安心して暮らせるまちづくり



大和小認知症キッズ
サポーター養成講座
保護者も参加♪



長島町、中筋まめじゃ会
でACP普及啓発活動♪



竹の和で介護予防教室
皆さんでコグニサイズ♪



深谷地区でオレンジカフェ
フェルトと糸でロバ隊長作り♪



大和地区・深谷地区で腰痛予
防の「たけのこ体操」普及活動



深谷保育所で保育士さん対象
の認知症サポーター養成講座



第2回認知症みんなが安心声
かけ訓練in深谷♪

個別支援から地域支援への「基点」となることを目指して

地域包括ケアシステムの構築

地域ケア会議

5つの機能

- ①個別課題の解決
- ②ネットワーク構築
- ③地域課題の発見
- ④地域づくり・資源開発
- ⑤政策の形成

● 地域支援

● 個別支援



センター長・主任介護支援専門員：内山

ご清聴ありがとうございました

